

「北海道がんサミット2017」を開催

平成29年8月6日（日）にWEST19（札幌市）において、北海道がんサミット2017「患者の声を、がん対策へ ～今、なぜ受動喫煙防止条例が必要なのか～」を開催しました。2回目である本年は約180名の参加があり、盛会に終了しました。

【北海道がんサミット開催までの経緯】

北海道ではがんによる死亡者数が年々増加しており、平成27年には年間約1万9千人もの方ががんで亡くなっております。平成24年に北海道がん対策推進条例が制定されましたが、具体的目標が無いことや予算的な裏づけに乏しいこともあり、北海道でのがん対策は十分なものではありませんでした。

平成27年5月末、前院長が「がん政策サミット」に参加したことがきっかけとなり、北海道がんサミット構想が始まりました。さらに平成27年10月に開催された道新フォーラム「オール北海道でがんを防ごう」に前院長がパネリストで参加した際、「北海道がんサミット」の開催を提案、開催に向けた意見交換会・勉強会を経て、がん患者や家族を中心に行政担当者、議員、医療関係者、企業関係者、メディアが個々の枠を超えて一堂に会し、6者が一体（六位一体）となり、がん対策の向上を目指す場として、北海道がん対策「六位一体」協議会を発足させました。活動の一環として、昨年「北海道がんサミット」を初めて開催しました。

【北海道がんサミット2017の概要】

午前の部は、今回のサミットのテーマである「受動喫煙防止条例」に関し、専門家から道受動喫煙防止条例の原案説明や美唄市受動喫煙防止条例制定の経緯、がん対策実現に向けて継続的な見直しの重要性などの講演がありました。

午後の部では、参加者が「たばこ対策」や「がんの早期発見・がん検診」など13の課題に分かれてグループワークを行い、北海道のがん対策の問題点や必要な対策について活発な意見交換を行いました。グループワーク終了後には、各グループから患者が望む目標や実現に向けた施策の発表がありました。

当院は患者連絡会や行政担当者などの各団体との連絡調整をはじめ、協議会の司会進行、チラシ・プログラムの作成、サミット開催に向けてのスケジュール管理等の業務を担当し、北海道がん対策「六位一体」協議会事務局の一員として貢献しました。

【今後に向けて】

各グループで交わした議論は、北海道がん対策「六位一体」協議会の要望書として取りまとめられ、北海道や札幌市が今後策定するがん対策への取り組みを充実させるよう、北海道知事や北海道議会議長及び札幌市長へ提出する予定です。



「受動喫煙 確かな防止策を」
 がんを 防ごう
 札幌で2回目の「サミット」

がん患者ら関係者が一堂に会し、受動喫煙防止やがん対策の課題を話し合った。北海道がんサミット2017



北海道がん患者連絡会、一位一体協議会（会長・長 北海道新聞社など13団体で 滝澤北海道医師会長の）の主 づくる北海道がん対策六 催で昨年に続き2回目。テ

がん患者、医療者、行政担当者、議員、企業関係者、メディアの6者が、がん死亡率が高い北海道のがん対策の課題や解決策を話し合う「北海道がんサミット2017」が6日、札幌市中央区のWEST19で開かれた。

患者の要望を提言へ

16日朝刊生活面に掲載します

「マは「患者の声を、がん対策へ、今、なぜ受動喫煙防止条例が必要なのか」。道が2018年度からの新たながん対策計画を策定することを受け、患者の要望を提言する。約180人が参加した。

講演では、がん対策北海道議会議員の会の中司哲雄会長代行が、12月開会予定の定例道議会に提案を目指す受動喫煙防止条例の原案を説明。美瑛市医師会の井門明会長は、昨年7月施行の市受動喫煙防止条例の制定経緯などを紹介し「受動喫煙のない社会をすもに残すのが大人の義務」と述べた。

NPO法人がん政策サミット（東京）の樋岡輝一理事長は、患者や住民の要望を実現するためには、がん計画で目標を明確に掲げることが重要だと話した。

その後、参加者は「早期発見」「がん教育」など13班に分かれて課題などを話し合い、「道庁や各市町村に実効性のある受動喫煙防止条例の制定・施行を要請する」とのアピールを採択した。協議会は、サミットで出た意見などを要望書にまとめ、知事、札幌市長、道議会などに提出する。

（がんサミットの詳報は、16日朝刊生活面に掲載します）

【平成29年8月7日 北海道新聞朝刊】

ウェブ許諾表記：北海道新聞社許諾 D1708-1802-00012797